根室の未来を考える　令和3年度子ども会議
報告書

根室市教育委員会

根室市では、子どもたちの健全な成長に向けた取組の充実を図るため、平成２９年度より子ども会議を開催しています。

昨年度は、コロナの関係で「子ども会議」を実施することはできませんでしたが、コロナ禍における「いじめ」について、根室高校の演劇部によるYouTube動画を作成して、各学校でコロナ禍の「いじめ」について考えてもらいました。

本年４月から根室市教育委員会は、全ての小中学校等で「男女混合名簿」の取り組みをはじめたことを受けて、今年度は、『ジェンダー平等で明るい学校生活を考える』をテーマとしました。

本年度も、根室高等学校の演劇部に協力していただき、演題「子ども会議に向けた会議」の演技を通して、高校生の視点で「ジェンダー平等」について提言をしていただきました。

最後には、参加者全員で意見交流をして、「ジェンダー平等」の意識を高めることを目的として取り組みました。

Ⅰ．子ども会議の概要

（１）日　時　　令和３年１２月２７日（月）１０時００分～１２時００分
（２）場　所　　根室市総合文化会館　多目的ホール
（３）参加者　　市内小・中学校等の児童会・生徒会代表者３５名、引率教諭１５名
　　根室高校生徒会代表者２名、根室高校演劇部６名、引率教諭２名
（４）テーマ　　『ジェンダー平等で明るい学校生活を考える』
（５）日　程　　10：00　～　10：05　開会式
　　10：05　～　10：25　アニメ鑑賞・グループ協議
　　10：25　～　10：45　根室高校演劇部発表・グループ協議
　　11：10　～　11：50　発表
　　11：50　～　12：00　閉会式

Ⅱ．実践発表・意見交流

「学校におけるジェンダー平等」について、SDGｓ「ジェンダー平等」のアニメーションを鑑賞して、「学校におけるジェンダー平等」と「学校におけるジェンダー不平等」についてグループ協議を行い、その後、全体発表を行った。

【 出てきた主な意見 】

学校におけるジェンダー平等	学校におけるジェンダー不平等
・小規模校なので、クラスのみんなは、男女問わず仲良し。 ・ジャージの区別はない。女子の制服でズボンがはける。 ・給食の量や係活動、委員会活動等に区別なし。 ・お互いの違いを認め合う。 ・名前の呼び方（さん） ・男女混合名簿の実施。男女で背の順に並ぶ。 ・平等に権利を尊重できること。 ・外国の友達が一緒に生活しているが、普通に仲良く過ごしている。 ・男女平等は、お互いを深く知ることができる。	・男女の制服の違い。（スカートとズボン）男子がスカートをはくのは？女子がズボンをはくのは？ ・髪の毛の色、トイレが別々で、多目的トイレがない。更衣室が別々だけれども、女子更衣室しかない学校がある。 ・名前の呼び方（くん、ちゃん等） ・女子と男子の対応の差（重たい荷物の持ち運び）仕事の差。 ・男女別で並ぶこと。体育の授業の違い（長距離走、男子のみ柔道、女子はダンス） ・男性だから、女性だからと決めつけるところ。 ・男子が先で、女子が後、テストで男子と女子の選択。 ・席替えや班で男女の場所が決まっている。 ・女子だけの制服の一部が強制される。 ・異性と仲が良すぎると勘違いされたり、異性の友達が多かったら冷たい目で見られる。

Ⅲ．根室高校演劇部

あらすじ

１，ジェンダーって？・・・心の性別

２，高校でやっていることは・・・混合名簿　制服自由

３，ジェンダー平等をどうやって伝えていく？

・なんで女子スラックスなの？

「ズボンが好き」「スカートがはきたくなかった」

４．結果的には・・・どうしたらいい

本質を分かってくれたら　「みんな違ってみんないい」

台本作成時の高校生から出てきた意見

１，小中の先生も男女の決めつけをしているところあるかな

固定概念

２，だれもかれもが普通であって　自分の考えだけが常識ではないということ

３，価値観のおしつけはよくない　それを口に出すことはよくないよね

４，普通ってなんだろ　ぼくにとってのふつうは　他の人の異常かな
　　それがこていされてるのかな　大多数が正義なのかな
５，自分の意思を貫いて生きて欲しい　周りに流されないでほしい
６，もう少し深く知ろうとして欲しい　ただ教科書配られて終わりじゃやなくて
　　こういうことがあるんだなって知ろうとして欲しい
７，お互いを尊重し合う

【演劇を通しての演劇部の主張】

　普通ってなんだろ、ぼくにとってのふつうは他の人の異常かな？それがこていされてるのかな？大多数が正義なのかな？自分の意思を貫いて生きて欲しい！周りに流されないでほしい！

　もう少し深く知ろうとして欲しい！ただ教科書配られて終わりじゃやなくて、こういうことがあるんだなって知ろうとして欲しい！

　お互いを尊重し合う！

【交流結果】演劇鑑賞後の交流発表

　根室高校の演劇発表とメッセージを受けて、児童生徒の皆さんが「個性はあってよいし、人の考えを受け入れて、見た目で判断しない」「周りの人との違いがあっても、それを受け入れることが大切」など、高校生が伝えたいことを参加者が真摯に受け入れてることが分かりました。この難しい「ジェンダー平等」を難しくとらえようとしているのは、我々大人が固定概念をおしつけているからだと言われているような感じがしました。

Ⅳ．グループ発表

根室高校の演劇を鑑賞した後の感想
・個性はあってよいし、人の考えを受け入れて、見た目で判断しない。 ・ジェンダー平等について知らなかった。ジェンダー平等の問題をたくさんの人に伝えたことが大切。世界的にもっとジェンダーの考え方が広まったほうが良い。 ・女子のスラックスはOKなのに。男子のスカートはダメなの？ ・「みんなちがってみんないい！！」という言葉やふつうは一人一人ちがうということが印象に残った。 ・学校で教科書などを使って考える場を増やしていく。 ・高校にあって、小中にないこと、小中にあって、高校にないことがある。 ・固定概念をなくして、みんなが、平等を当たり前だと思えれば良いと思う。 ・演劇を鑑賞してジェンダー平等を実現させるのは難しいことだと思ったし、一人一人が理解を深めることの必要性を感じた。 ・小学生には難しいことだったかもしれないが、成長するにつれてゆっくりと理解していけば良い。 ・周りの人との違いがあっても、それを受け入れることが大切。 ・今は難しくても、一人一人が周りとの違いを認め、受け入れ歩みよって成長していき、最終的にはジェンダー平等で明るい学校生活を過ごしていきたい。

Ⅴ．まとめ

最後に、特別に参加していた北海道医療大学の冨家直明教授から「小中学生と高校生が一堂に会して話し合いをする会議を初めて見ました。素晴らしいことです。また、私は、『ジェンダー平等』で苦しんでいる方々とカウンセリングをする機会がありますが、みなさんの話し合いの結果を『ジェンダー平等』で苦しんでいる方々に聞かしてあげたいぐらいです。勇気が出ると思います」というような講評をいただきました。その後、根室市生徒指導連絡協議会会長である根室市立光洋中学校の藤原校長からの講評の中で、「『ジェンダー平等』の考え方と『いじめ』の基本的な考え方は同じであり、相手の考えを尊重することが大切である」とのコメントをいただき会議を締めくくりました。

Ⅵ．今後の対応

『ジェンダー平等』はとても難しい内容ではあったが、根室高校の演劇部の発表のように「個性はあってよいし、人の考えを受け入れて、見た目で判断しない」という考え方をみんなが持てるようになればと考える。

根室市教育委員会は、「あっとほーむねむろ」のYouTubeチャンネルに根室高校の演劇部の「ジェンダー平等」のYouTube動画をアップロードして、各学校で教科書代わりに活用し、児童生徒と話し合いを進めてもらえればと考えている。